

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：23302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K15749

研究課題名（和文）医療における良心的拒否を通じた権利擁護の射程と限界に関する日米比較調査

研究課題名（英文）Comparative research between Japan and the United States on conscientious objection in health care

研究代表者

加藤 穰 (Kato, Yutaka)

石川県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：20727341

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：医療において自律・自己決定が重要であるという点は広く受け入れられているが、脳死判定・輸血・ワクチン接種等が良心に基づいて拒否されるとき、医療における自律は綻びを見せると思われる。日本とアメリカ合衆国の比較を軸に、医療における良心的拒否について調査しその役割と限界を検討し、また関連する事象を探索してこれらの事例を医療全体の中で位置づけ、これらを通して医療における自律を再考しようとした。各事例について歴史的経緯や最新の状況・議論を調査して数件の学会発表および論文として公表したが、特に新しい手法を取り入れるために期間内に終えられなかった調査、書き終えられなかった論文があるので早期に完成したい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療における自律・自己決定について多様な視点から研究が続けられているが、本研究は、医療における良心的拒否という、自律原則が綻びを呈しているかに見える事例を掘り下げること、ワクチン接種拒否等、喫緊の問題事例に対処するだけでなく、医療における自律をより概念的に洗練し、実践的にも改良することにつなげることを目指した。各事例について歴史的経緯や最新の状況・議論を調査して数件の学会発表および論文として公表できた。また、主流の生命倫理学では異なる考えを持つ人が同意できる最小限の抽象的原則として自律を捉え、そこを基盤として議論を可能にしようとするが、このような議論の問題点に関する洞察も得た。

研究成果の概要（英文）：The importance of autonomy and self-determination in health care is widely recognized. Nevertheless, it apparently fails when some people refuse death determination using the brain death criteria, blood transfusion, or vaccination. Primarily through the comparison of practices between Japan and the United States, this project aimed to elucidate the status quo of conscientious objection in health care and its roles and limitations, and explore relevant health-related practices, revisiting and shedding new light on the issues surrounding autonomy and self-determination in health care. This project resulted in a number of oral presentations and published articles dealing with the practices and discussions. However, the remaining part of the project which utilized new approaches needs to be completed and published.

研究分野：生命倫理学

キーワード：医療における良心的拒否 治療拒否 自己決定

1. 研究開始当初の背景

今日のアメリカ合衆国では、脳死判定(一部の州) ワクチン接種、輸血を良心(典型的には宗教的信仰に基づく)に基づいて拒否できる。その裏返しとして、拒否が良心的でない場合等には、これらを拒否できないとしばしば考えられている。日本でもワクチン接種拒否や輸血拒否は見られる。特にワクチン接種拒否は世界的に公衆衛生上の脅威となりつつある。例えばワクチン接種に反対する団体は、インフォームドコンセントや自己決定が公衆衛生を上回るものと考え、それに基づいて接種を拒否するのだが、実態として自己決定が良心に基づいているときには特別な配慮を受けているということである。その一方で、1979年の初版以来「四原則」の提唱で知られる T. Beauchamp と J. Childress による Principles of Biomedical Ethics (Oxford University Press)は、近年の版において明確に打ち出されているとおり、同書の提唱する原則が、自律尊重の原則も含め、あらゆる立場の人によって合意できる最低限の抽象的で形式的な原則であると理解してきた。すなわち、自律・自己決定はその性質の差異は問われず抽象的・形式的に理解されてきた。しかしながら、こうした慣行を一貫した仕方では理解することは難しい。医療倫理成立期においては宗教的な言説の役割は意識的に限定されたのであり、それをどのように組み込むかは今後の検討課題であると論じられてきた (Messikomer, CM. et al. The Presence and Influence of Religion in American Bioethics. Perspectives in Biology and Medicine 44(4): 485-508, 2001)。医療における自律・自己決定について多様な視点から研究が続けられているが、本研究は、医療における良心的拒否という、自律原則が綻びを呈しているかに見える事例を掘り下げること、ワクチン接種拒否等、喫緊の問題事例に対処するだけでなく、医療における自律をより概念的に洗練し、実践的にも改良することにつなげる。

2. 研究の目的

医療において自律・自己決定が重要であるという点は広く受け入れられているが、脳死判定・輸血・ワクチン接種等が良心に基づいて拒否されるとき、医療における自律は綻びを見せると思われる。本研究は日米でのこうした医療における良心的拒否のあり方をめぐって、歴史的経緯や最新の状況、背景にある考え方、良心と自己決定の関係性、公衆衛生との相克といった論点を精査し、医療における良心的拒否、ひいては社会文化的要因の限界と射程、すなわちそれが果たすべき(でない)役割を解明する。こうした問いに答える中で自己決定概念を精緻化・豊饒化することを目指す。

3. 研究の方法

本研究は、(i)文献・判例検討、(ii)社会調査、(iii)比較・総合をその内容とし、(i)(iii)では主に文献研究が、(ii)では社会調査が行われることを予定していた。文献等を用いた調査が予定していた以上の範囲と分量になったことや、これまで使用していなかったソフトウェア、手法の習熟に時間を要したことなどにより期間内に社会調査を完了することができなかったが、予定していた地域がニューヨーク州であり、昨今のコロナウイルス感染状況からすると実施が数年にわたって遅れる可能性がある。

4. 研究成果

本研究課題では、医療における良心的拒否について各事例の歴史的経緯や最新の状況・議論を調査して調査し、その役割と限界を検討し、また関連する事象を探索してこれらの事例を医療全体の中で位置づけ、これらを通して医療における自律を再考しようとした。数件の学会発表および論文として公表した。

“A minority view in the national health care system : the history of neurologic death legislation in Japan”では日本の脳死判定をめぐる議論をアメリカ等での議論を参照しながら歴史的経緯について詳細に論じた。また、“Religious and Non-Religious Grounds for Refusing Vaccination: the Results of a Database Search”と題した口頭発表(The Asian Conference on Ethics, Religion & Philosophyにおける単独発表)では、ワクチン接種拒否について、宗教的理由やそれ以外の理由に基づく拒否について、文献資料を系統的に検討して報告した。この研究発表を基に、その後、“Conscientious Objection and Other Grounds for Vaccination Refusals Worldwide”と題する単著論文を公表した。本論文では、アメリカの枠組みを利用して、とりわけ医学的でない理由に着目しながら世界的なワクチン接種拒否の展開を検討した。

“Complementary but not alternative: grounds for rejecting conventional medicine based on literature search”と題した口頭発表(8th French-Japanese International Bioethics Conferenceにおける単独発表)は、例示として挙げた脳死判定拒否、輸血拒否、ワクチン接種拒否以外の同様の医療等に関する慣行を探索する試みとして、代替医療を何らかの信念に基づ

いて選び、その際に標準的治療の拒否を含む事例について、これまで扱ってきた他の事例との関連性を確認した成果を報告したものである。また、代替医療を何らかの信念に基づいて選び、その際に標準的治療の拒否を含む事例について、これまで扱ってきた他の事例との関連性を確認するために、まず日本の事例を検討した論文を現在執筆中である。

“Traditional medicine practiced by Mongolian race” と題した口頭発表（8th French-Japanese International Bioethics Conference における Yu, L. を筆頭とする共同発表）では、医療に反映される文化的・宗教的側面の事例について報告した。

“Revisiting autonomy in the new era in light of conscience” と題した口頭発表（The 16th Annual Conference of the International Society for Clinical Bioethics における単独発表）では、これまでの日本とアメリカ合衆国の事例に関する検討をもとにして、従来の自律に対する考え方を問い直した。主流の生命倫理学では異なる考えを持つ人が同意できる最小限の抽象的原則として自律を捉え、そこを基盤として議論を可能にしようとするが、このような議論の難点に関する洞察も得た。自律を問い直す成果としては、現在執筆中の論文ではあるが、過去数年の間にアメリカ合衆国での脳死判定拒否については新しい動きが見られるので、こちらについても状況を解説したうえで、自律をめぐる議論されてきた点、見過ごされている論点を検討した論文を用意している。

研究が進展するにつれて考究の対象となる事象の多様性がより顕著になったためにさらに論文化を進めて全体像の理解に進んでいく必要がある。諸般の事情により期間内に終えられなかった調査、書き終えられなかった論文があるのでそれらについては研究期間終了後できるだけ早期に完成するようにしたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kato, Y.	4. 巻 20
2. 論文標題 A minority view in the national health care system : the history of neurologic death legislation in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Formosan Journal of Medical Humanities	6. 最初と最後の頁 18-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato, Y.	4. 巻 13
2. 論文標題 Conscientious Objection and Other Grounds for Vaccination Refusals Worldwide	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Kato, Y.
2. 発表標題 Complementary but not alternative: grounds for rejecting conventional medicine based on literature search
3. 学会等名 8th French-Japanese International Bioethics Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yu, L. and Kato, Y.
2. 発表標題 Traditional medicine practiced by Mongolian race
3. 学会等名 8th French-Japanese International Bioethics Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato, Y.
2. 発表標題 Religious and Non-Religious Grounds for Refusing Vaccination: the Results of a Database Search
3. 学会等名 The Asian Conference on Ethics, Religion & Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato, Y.
2. 発表標題 Revisiting autonomy in the new era in light of conscience
3. 学会等名 The 16th Annual Conference of the International Society for Clinical Bioethics (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考